

平成 28 年 12 月 1 日

各関係大学長・学部長・研究科長 殿
各関係研究所長 殿

静岡県立大学学長
鬼頭 宏（公印略）

講師又は助教の公募について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび静岡県立大学薬学部では、薬学科 分子薬学大講座 生薬学分野（大学院薬学研究院兼務、博士前期課程薬科学専攻、博士後期課程薬食生命科学専攻）の講師又は助教の採用を行うことになりました。つきましては、下記要領をお含みの上ご応募いただきたく、関係各位への周知の方宜しくお取り計らいくださるようお願い申し上げます。

記

- 1 職名 講師又は助教
- 2 任期 (講師の場合) 5年の任期付。1回に限り再任可。再任の場合の任期は5年。
(※ただし、5年の任期に再任を加えた通算の任期は、平成25年4月1日以降の静岡県公立大学法人との最初の労働契約日(更新を含む。)から起算して10年を限度とする。)
(助教の場合) 5年の任期付。2回に限り再任可。再任の場合の任期は3年、再々任の場合の任期は2年。
(※ただし、5年の任期に再任を加えた通算の任期は、平成25年4月1日以降の静岡県公立大学法人との最初の労働契約日(更新を含む。)から起算して10年を限度とする。)
- 3 所属 薬学部薬学科 分子薬学大講座 生薬学分野
大学院薬学研究院 薬科学専攻(博士前期課程)、薬食生命科学専攻(博士後期課程) 生薬学講座
- 4 資格 博士の学位を有していること。薬剤師の資格を有することが望ましい。
- 5 専門分野 生薬学・天然物化学
- 6 担当科目 他の教員との協力により、以下の科目を担当する。
学部：化学系薬学実習Ⅰ～Ⅱ、科学演習、生薬学、漢方薬学 等
なお、病院・薬局実務実習事前学習の一部も担当する。
大学院：生薬学特論および関連する講義、実習、演習、実験
- 7 特記事項 講座を構成する他の教員と協力して講座運営にあたり、新しい天然物化学分野を

切り拓くことに取り組むとともに、講座配属された学生の進路・将来、大学の業務に責任を持って取り組む人材を募集する。また、薬用植物園を活用した社会貢献に寄与できる人材が望ましい。

8 着任時期 平成 29 年 4 月 1 日（予定）

9 提出書類（用紙は A4 版を使用）

- | | |
|---|-------|
| (1) 履歴書（写真を貼付し、署名または捺印） | 1 通 |
| 高校卒業以降の履歴を記載すること。 | |
| (2) 研究業績目録（主要論文には○印を記載のこと） | 1 通 |
| (a)原著論文 (b)総説 (c)その他（学会招待講演等）に分け、それぞれ現在から発表年次を過去に遡って記載のこと。 | |
| (3) 主要原著論文の別刷り | 各 1 部 |
| 10 編以内。ただし、過去 10 年間に発表した代表的なもの。最近の邦文総説がある場合には、それを 10 編の他に提出することが望ましい。 | |
| (4) 現在までの教育実績及び研究実績の概要（1,000 字以内にまとめたもの） | 1 部 |
| (5) 将来の教育・研究に関する抱負と展望（1,000 字以内） | 1 部 |
| (6) 研究助成金等の採択状況（代表分担の別を記載） | 1 部 |
| (7) 国際会議での活動、特許、その他特記すべき事項 | 1 部 |
| (8) 応募者に対する所見をいただける方 2 名とその方の連絡先（所属、住所、電話番号等） | 1 部 |
| (9) 希望する職位（「講師」、「助教」、「講師でも助教でもどちらでもよい」を記載） | 1 部 |
| *選考の過程でプレゼンテーション・面接をお願いする場合があります。 | |

10 締切り期日 平成 29 年 1 月 5 日（木曜日）正午（必着）

11 提出および問合せ先

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52 番 1 号

静岡県立大学 教育研究推進部広報・企画室 海野 薫代 宛

電話 (054) 264-5106 (事務局)

E-mail tyous2@u-shizuoka-ken.ac.jp

注) 書類は、郵送で書留とし、「生薬学分野講師又は助教応募書類在中」と朱書きのこと。

12 その他

- (1) 応募書類は、原則として返却いたしません。原著等で返却を希望される場合は、応募者の費用負担により返却しますので、返却を希望する旨を明記の上、郵便切手を貼った返信用封筒又は着払い扱いの宅配便の宛名ラベルを同封してください。
- (2) 提出いただいた書類は、厳重に保管・管理し、審査終了後は責任をもって廃棄します。また、提出いただいた書類に含まれる個人情報、個人情報保護法に基づき、選考以外の目的には使用いたしません。